

オベサ・カスアリーナ (モクマオウ科)

Casuarina obesa Miq.

英語：Swamp She-oak



【概要】本種は西オーストラリア州の西南部に広く分布し、同州中央部および南オーストラリア州中央部、ニューサウスウェールズ州に隔離分布する。西オーストラリア州以外は分布域が小さい。同属の *C.glauca* および *C.cristata* と近縁な種で、温暖な半湿潤地、半乾燥地の塩集積土壌に生育する。燃料木、被陰木として植栽され、窒素固定による土壌の肥沃化に利用される。トクサバモクマオウ(トキワギョリュウとも呼ばれる、*C. equisetifolia*)、カニンガムモクマオウ(リバーオークとも、*C. cunninghamiana*)は世界各地で植栽されるが、本種の利用はオーストラリアに限られているようだ。同属他種と比較し、乾燥地、塩集積地への適応耐性は強いので乾燥荒廃地の緑化に期待される。

【形態】立地条件により成長は異なり、厳しい場所では株立ちして樹高 1~2m の灌木に、好条件の場所では優勢な幹が伸び 5~14m の低木に成長する(写真 a)。雌雄異株。暗灰色の樹皮はコルク質で厚い。よく分枝し、小枝は長さ 30cm 弱で、各節に退化した三角状の葉が輪生する(写真 b)。木質で小型の果実は小枝の先端に着き、長さ 10-20mm の卵形(写真 c)。

【生態】西オーストラリア州では、年降雨量 275mm~700mm に分布し、塩湖や沼地の周辺、塩水小川に沿って生育し、土壌の電気伝導率 (ECe) が 1600 mS / m を超える高塩分条件に耐えることができる。実生も塩水の浸水状態に対して非常に耐性があることが知られている。ローム、砂質土、石灰質砂土、粘土質土壌などほとんどの土壌に適応する。

【繁殖・育苗】健康で優勢な木から球果を集め、乾燥させて種子を取り出す。1g あたり 370~840 粒の種子が含まれる。播種前の処理は不要。発芽の最適温度は 30℃前後で多少塩分を含む水でも散水可能である。繁殖、育苗に関しては基本的に同属他種と同じ扱いでよい。根萌芽、挿し木などでも増殖が可能であり、*Frankia* 属の接種も同様の効果がある。

【成長・その他】滞水地、湿地に植栽する場合は深さ 30cm 前後の掻き起こし (ripping)、畝立て(mounding)を行うと苗木の生存率が高まる。西オーストラリアの年降水量 200mm の乾燥地でハードパン破碎、マイクロキャッチメントを併用して疎植栽した例では約 5 年で平均樹高 4.36m に成長するがその後の伸長成長は鈍くなり、17 年後で平均樹高 4.78m であった。

【主な参考文献】(1)Turnbull, J.W ed. (1986). Multipurpose Australian trees and shrubs.316pp. ACIAR.

(2)<http://www.avongro.com.au/Webpages/documents/GAWASwampSheoak.pdf>.(Swamp Sheoak (*Casuarina obesa*) use in Farm Forestry By Tim Emmott, Greening Australia (WA))

Accessed 28 Feb. 2022.

写真 a *C. obesa* WA07Mar S98

写真 b *Casuarina obesa* WA02Jul S100-2

写真 c *C. obesa* seeds WA00Jul S97-2

写真 d *C. obesa* seedling WA02May S96-2